第４回 岡谷市史編さん委員会 【会議録】

【日時】令和８年３月27日（金）15時00 分～16時15分
【場所】岡谷市役所６階６０５会議室
【出席者】
（委員）小口明則委員長、草間吉幸副委員長、赤沼喜市委員、小松茂委員、髙木千奈美委員、
浜田恵美子委員、林幸夫委員、宮坂春夫委員、大石順子委員、小口隆秀委員
（岡谷市）白上淳教育部長、両角秀孝教育担当参事（挨拶のみ）、三澤達也生涯学習課長、
秋山仁志主幹、小池秀昭主査、小林博専門職員、櫻井洋専門職員、
長石成久税務課副参事（挨拶のみ）
【次第】
１開会（小口委員長）　２あいさつ（白上部長）、（新年度就任あいさつ：両角参事、長石副参事）
３議事　（議長　小口委員長）
（１）岡谷市史編さん業務委託公募型企画提案（プロポーザル）の実施結果について
（２）令和８年度岡谷市史編さん委員会　活動内容及び予定について
（３）令和７年度事業実績について
（４）市有形民俗文化財指定について
４その他（事務連絡）　５閉会（草間副委員長）

【議事の経過及び発言の要旨】
（１）岡谷市史編さん業務委託公募型企画提案（プロポーザル）の実施結果について
事務局より、経過、事業者からの提案内容及び審査結果について説明した。
（事業者選定委員の感想）
委員長　目次構成案が、通史と部門史とに分けていることで読みやすさの工夫がされていたり、岡谷の特徴である「ものづくり」を特集にしたりといったユニークさを評価した。執筆者には岡谷をよく知ってもらう意味で、頻繁に岡谷へ足を運んで岡谷のまちや人、生活の様子などを体で感じてもらったことが文章に現れるような形でやって欲しいと思っている。
副委員長　市民がわかりやすく興味を持って読んでもらうように、たとえば文体を「ですます調」に変えたり、１ページ当たりの字数を減らしたり、写真を増やしたりといった工夫がされている。
委員　遠方の会社であることが心配であったが、担当が随時打ち合わせに来岡するとのことで、十分な対応が可能とのことで安心した。
（質疑等）
委員　執筆者が１人で大丈夫か。
委員長　他の自治体でも１人で行っていて問題ないと聞いている。
事務局　執筆者の実績が21年あり、これまで女川町、大間町、和光市、東松山市、利府町、南箕輪村の自治体史を担当されてきている。表記や観点がぶれないので、むしろこのボリュームであれば１人の方がまとまるのではないかという話であった。
委員　大きな会社なので、中心は執筆者であっても、何かチームがあってみんなで作っていくという体制ではないのか。

事務局　執筆者は１人、そのほかに全体の管理者１人、打ち合わせや資料のやり取りなどの窓口として２人、校正担当が３人、編集やレイアウト担当が３人というチームで体制が組まれている。

委員　それにしても大変だと思う。

委員長　確かに大変だとは思うが、文体の統一という点で一人の方がいいか。新聞のコラムなど昔は１人でやっていた。今はデータの収集も早いので、取材という面での負担は軽減されているかと思う。

委員　自分も経験があり、たとえば地域や年代で分けるなどで昔はやってきた。できるだけこちらに来てもらって、地元の人と話をしてもらうことが大事だと思う。

委員長　実際に記事にするかは別としても是非やってもらい、提案書にある「岡谷の特性が匂いたつような市史」になるよう、岡谷に来てもらって肌で感じてもらうことが大事だと思う。

委員　そのとおり。たくさんの資料を読むのと一人ひとりの話を聞くのとでは大きく違う。在住してもらうくらいの感じでやってもらった方がいいと思う。

副委員長　我々も１人で大丈夫かと聞いてみたが、あえて１人でやった方が市史としては完成度が高まるということだった。地元にかなり入り込むというような話だった。

委員　１人でやる方が全体の流れとしてはいいと思うが、それだけに大変だと感じる。

委員　ほかの市町村史と並行しながら書いていくということか。

委員長　他の仕事をしているかどうかはわからないが、少なくとも岡谷の市史については専属だと思う。

委員　資料収集について、執筆を進めていくうちに写真が欲しいということになるのか、現在手元にあるものを使いながら文章を書いていくのか、あるいは必要であれば公募したりするなど、どんなことが考えられるか。

事務局　あらかじめ提示した年表を元に書いてもらうことになると思う。素材については肖像権、著作権の問題があるので、市が持っているものを基本的に使っていきたいと考えている。新聞の写真など無料で使えるものがあれば使いたい。基本的には求められたものをこちらで探して提供していく。必要に応じて民間からも入手したい。

委員長　地元新聞の縮刷版や広報誌などいろいろ資料があるので、その中で使えるものは使うということだと思う。それよりも直接市民の声を聞いて感じたことを文章にしていくことが大事かと思う。

委員　スケジュール案について、業者が提示したのか、それともこちらから要求をしたものなのか。また、第１次原稿、第２次原稿共に同じ執筆者ということか。

事務局　スケジュールは業者から提案があったもので契約後に再度詰めていく。執筆は２次原稿も１人にお願いする。

委員　２年かからずに原稿ができるということに、ますます大変さを感じる。

委員長　業者には編さん委員会でたくさん意見が出るというように話をしてある。いろいろな要望を出しながらも、決めていくべきところはきちんと決めていきたいのでよろしくお願いしたい。

（２）令和８年度岡谷市史編さん委員会　活動内容及び予定について

事務局より、資料に基づいて説明した。

（質疑等）

委員長　補遺については事務局で専門知識を持つ方とコンタクトをとりながら進めていくということか。

事務局　市史編さん委員会設置要綱の中で、補遺のための 10 名以内の編集専門委員を設置することとしている。来年度中に数名の方にお願いをして進めていきたい。原稿があがってきたら編さん委員会にも示していきたい。具体的な発行方法は検討中。補遺についても 54 年以降の市史にトピック的に掲載できるものがあれば掲載したい。

委員長　補遺に期待している人は多いと思うので、着実に進めてほしい。

（３）令和７年度事業実績について

事務局より、資料に基づいて説明した。

（質疑等）

なし

（４）市有形民俗文化財指定について

事務局より、資料に基づいて説明した。

（質疑等）

委員　「面」については、江戸時代に諏訪地方広く神事で使われていたもので、たまたま新倉区で残っていたもの。諏訪蚕糸学校の野球関連資料は、全国初の野球関連資料ということで注目されている。2,750 点ある中で、来歴がわかるものだけを今回指定したが、今後の研究でさらに増えるかもしれない。激励文の中で、吉田さんは有名な吉田館、中村百太郎さんは中村製糸所、繭倉庫が現在のレコード店になっている。

委員長　面は豊作を祈念するような祭りに使ったものなのか。

事務局　下伊那での湯立神楽、具体的には霜月祭のような祭りに使われたと推測。

委員　種類がいろいろあるが、意味があるのか。

事務局　意味はあると思うが資料が残っていないのでわからない。

委員長　諏訪蚕糸の試合球など「寄託」とあるものは返してもらえるのか。

事務局　返してもらえると思う。当初岡工同窓会がどんな話をしたかわからないが、その手続きもしていきたい。

元は岡工同窓会が所有、甲子園に貸し出した後に岡谷市に寄贈となったもので所有権は岡谷市にあり、蚕糸博物館の所蔵となっている。寄託だけは残っていて、この機会に「里帰り」を検討してほしいと蚕糸博物館に伝えてある。

その他事務連絡

・新年度用の委員証を配布。